

えんげ 嚥下検診について

日南町では、「鳥取大学・日南町連携事業 地域貢献支援事業(地域課題研究)」において、『嚥下検診における高齢者の嚥下障害スクリーニング』という事業を平成27～29年度の3年間行ってきました。

嚥下検診は、平成27～29年度の住民検診会場で実施し、多くのおみなさまに受診していただきました。今回は、この嚥下検診について報告を行います。



保健現場 レポート

日南病院 耳鼻咽喉科
(鳥取大学医学部附属
病院 耳鼻咽喉・頭頸
部外科)
医師 藤原 和典

362

鳥取大学耳鼻咽喉・頭頸部外科の藤原です。私は、鳥取大学地域課題研究として、日南町において嚥下検診を行ってきました。この活動は、嚥下検診により、高齢者の嚥下障害や誤嚥性肺炎になる危険性のある人を早期に見つけることを目的として行いました。

【嚥下検診を開始した経緯】

嚥下障害とは、のどの機能が低下することで、飲み込みがしにくくなり、悪化すると食べたものや唾液を誤嚥(ごえん)することを言います。ひどい場合には、肺炎を起こし命にかかわることもあります。そこで我々は、嚥下障害を早期に見出し、予防するため、嚥下検診を開始しました。

【嚥下検診の内容】

検診内容は、

- ① 咳テスト
 - ・ 独自で開発した咳の力を測る装置を使用(写真①)
- ② 体の栄養状態の検査
 - ・ 体組成計に乗り測定(写真②)
- ③ 問診
 - ・ 嚥下障害の症状の有無を聞き取る。

これらの検診項目は、短時間でかつ体に影響を及ぼさない検査です。この結果、一定の基準を下回る方は、後日、日南病院耳鼻咽喉科に受診していただき、精密検査を行いました。精密検査の結果、嚥下障害と診断された場合には、日南病院で食事指導や飲み込みのリハビリを行いました。

【嚥下検診の結果と効果】

嚥下検診は、3年間で182名の方に受診していただきました。検査の結果、受診いただいた方々の約半数が、要精密検査となりました。精密検査の結果は、全体の17%の方に嚥下障害を認め、全体の4.5%の方に治療を必要とする状態であることがわかりました。おもに高齢者を対象に検診を行い、歩いて受診いただける比較的元気な方にもかかわらず、多くの方が嚥下障害を有していることがわかり、嚥下検診が有用であることが示唆されました。この検診は、短時間で、体に負担がかけない方法で行ったため、気軽に受診していただけたのではないかと考えています。

またこの検診を通じて、嚥下障害をみなさんに少しでも知っていただく機会になったのではないかと考えています。いつまでも、美味しい食事を口から食べていただけるように、嚥下障害を他人事と考えず、予防に関する意識を持つていただければと考えています。

※「嚥下障害」については、広報にちなん6月号で掲載予定です。



写真②

体の栄養状態の検査



写真①

咳テストの様子

